

日本の農業を 守るには

DELレポート No. 50

2025年2月

作成者:R.C

 **脱炭素経営ドットコム**

By DENKOSHA

8 働きがいも
経済成長も



15 陸の豊かさも
守ろう



「DELレポート」とは、環境やSDGsに係る社会問題を取り上げ、原因・背景から解決に向けた施策事例や将来の展望までを調査しコンパクトにまとめた報告書です。脱炭素経営ドットコムを運営する株式会社電巧社では、全従業員が本レポートの作成に取り組んでいます。

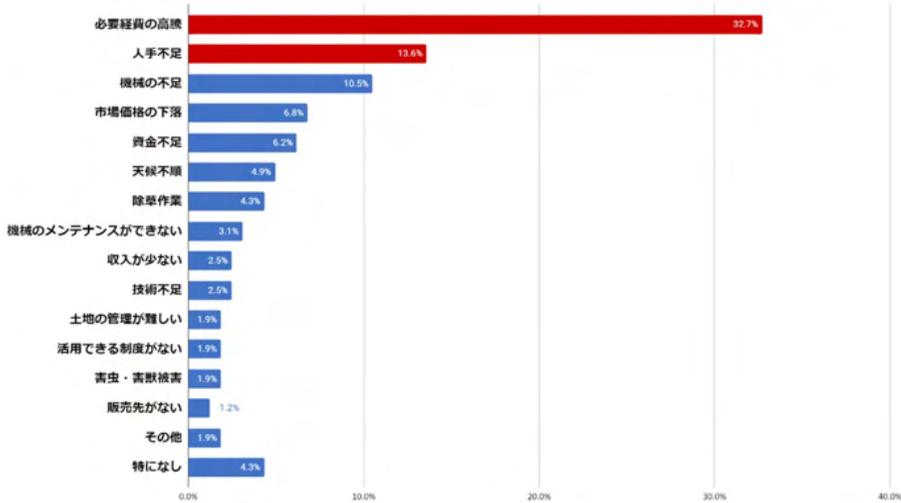


日本の農業が衰退していく要因

■ 農業従事者の減少

- 現在は市場価格が下落し、農業だけ(専業農家)で生計を立てる事が困難な状況である
更に昔からイメージの悪い3K(きつい、汚い、カッコ悪い)が付きまってくる事から、率先して目指すことが少ない
- 昨今特に必要経費である機械費、燃料代が高騰している為、これから農業に従事していく事や携わっていきたいという気持ちへの失望感が生まれ、手を出し辛い状況となっている
- 従事者の高齢化が劇的な速さで進む一方で、若者の従事者がいない事により後継者不足が顕著に見られている

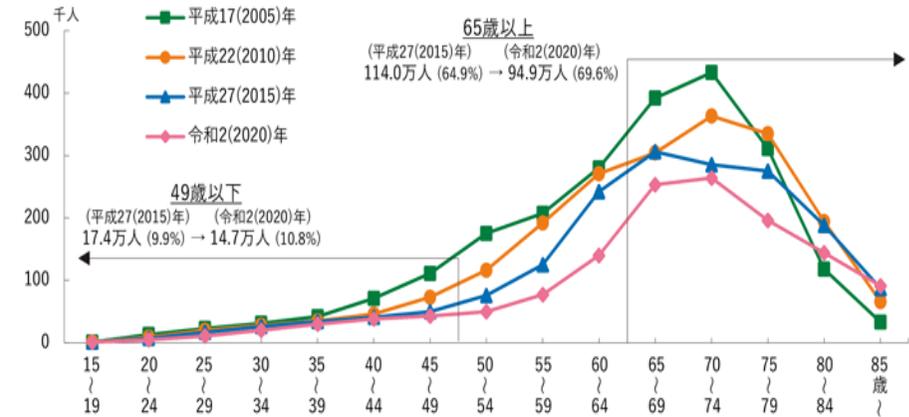
■ 農業経営する上での困り事



出典:PR times

■ 農業従事者の高齢者割合

図表 特-2 年齢階層別基幹的農業従事者数



資料：農林水産省「農林業センサス」、「2010年世界農林業センサス」(組替集計)

注：1) 各年2月1日時点の数値

2) 平成17(2005)年の基幹的農業従事者数は販売農家の数値

出典：農林水産省

如何にして農業のイメージアップを図るか

日本の農業を継続させる為に

■ 現状の「農業」を理解してもらう

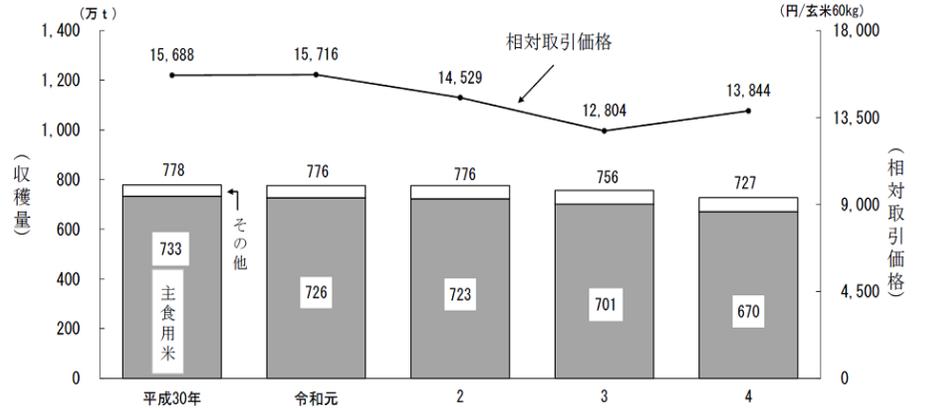
- 日本の農業の魅力を知ってもらう為、幅広い方々へ関心を持ってもらう様々な企画、催し物を実施していく必要がある。これは、農業従事者だけの問題とならない様に、各地方自治体、農協、各農業団体、地元住民が一体となり企画する事が大切である
- 近年、「農業」自体に関心を持っている人は非常に多い事からも、まずは如何に農業に触れる機会を作るかを考える
- しかし、どうしても天候や自然現象(地震、豪雨、土砂災害等)に影響されてしまう事が多い為、毎年の絶対的な安定した収入保障が無いのが解決し難い問題点である

■ 農業の認知度を上げる参加型の催し物



出典:PR times

■ 米の収穫量と価格



資料：農林水産省統計部「作物統計調査」及び農林水産省農産局「米穀の取引に関する報告」(米の相対取引価格・数量)

注：1 相対取引価格は、当該年産の出回りから翌年10月までの通年平均価格である。

2 収穫量の「その他」は、備蓄米、加工用米、新規需要米等である。

出典:農林水産省

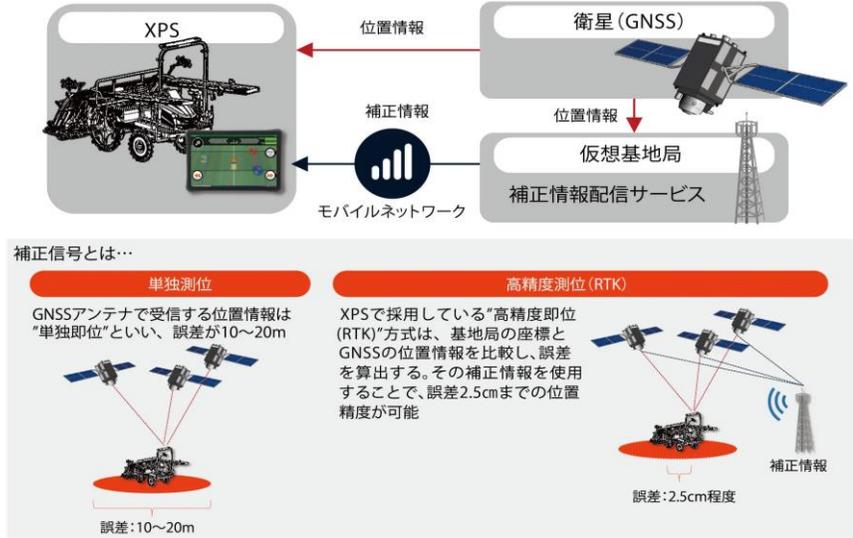
「万人が出来る」農業スタイル

マンパワーだけに頼らない新たな農業

■ 未来の農業スタイルの確立

- 今後は全体的に農作物の価格が上がり、農業だけ(専業農家)でも十分に生計を立てられる給与水準となっていく
- 各地域での農作物のブランド化が進み、収益を見込める体制と変貌する。それに伴い、以前までの悪い3K(きつい、汚い、カッコ悪い)が新3K(稼げる、効率化、カッコいい)に変貌していく
- DX化、自動化により、従事者の重労働は激減する反面、使用する機械が高価となっていくが、稼げる農業スタイルに変わる事で十分に必要経費を賄える体制となっていく

■ 自動操舵システム



出典:PR times

■ 農業用ドローン



出典:PR times

もう既に実施されている事が多数ある

■ 参照・引用資料

- 農林水産省,「担い手の動向」,2024年5月31日(https://www.maff.go.jp/j/wpaper/w_maff/h26/h26_h/trend/part1/chap2/c2_1_03.html)
- リプラス,「農業の人出不足の解決」,2022年12月7日(https://shizenenergy.net/re-plus/column/agriculture/labor_shortage)
- 農家・農業求人サイト【あぐりナビ】、「なぜ？食い止めたい！深刻な若者の農業離れ」,2023年11月28日(agri-navi.com)
- マイナビ農業,「農家が本当に悩んでいる事は？」,2023年1月11日, (https://agri.mynavi.jp/2023_01_11_215107)
- チバニアン兼業農学校,「農業イベントで繋がる農家の輪」,2023年3月10日, (<https://chibanian.info/nogyoievent2024>)
- モノリーフ,「スマート農業の最先端のシステム・ロボット農機」,2023年8月20日, (<https://mono-leaf.co.jp/smart-agriculture-machine-list>)



<https://de-denkosha.co.jp/datsutanso/>

脱炭素経営とは、再生可能エネルギーを創る「創エネ」、使う電気を減らす「省エネ」、創った電気を貯める「蓄エネ」をうまく活用し、会社・事業で排出する温室効果ガス「0」を目標にする経営のこと。

中小企業の私たちにも、できる取り組みが沢山あることを伝えたい。このような想いで、90年以上「電気」に向き合ってきた電巧社ならではのアイデアが詰まった創エネ、省エネ、蓄エネのソリューションをお伝えできる情報を、当サイトで発信しております。

DELレポートに関するお問い合わせ先はこちらへ

電気のコンシェルジュ

DENKOSHA

株式会社 電巧社

〒105-0014 東京都港区芝2-10-4

TEL: 03-3453-2221(本社代表)

担当: DELレポート事務局

- 本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。
- 本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。
- 本レポートの配信に関して閲覧した方が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。
- 本レポートに関する知的所有権は株式会社電巧社に帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。